

第30回職業リハビリテーション研究・実践発表会

第7分科会：多様な働き方（短時間、テレワーク、協同組合）

短時間で働く精神障害のある者の フルタイム勤務への移行意志について

：雇用率算定方法の特例が適用される労働者を中心に

渋谷 友紀（障害者職業総合センター 研究員）

清水 求（障害者職業総合センター 研究協力員）

小池 磨美（元障害者職業総合センター，現東京障害者職業センター）

1 本研究の背景（1）

- 精神障害のある人は身体又は知的障害のある人に比べ、職場定着が難しい^[1]
- 
- 労働時間区分が1週あたり「20時間以上30時間未満」である場合、他の時間区分より有意に定着率が高くなる^[1]
- 
- 厚生労働省が「精神障害者である短時間労働者の算定方法に係る特例措置」を導入^[2]

[1] 障害者職業総合センター(2017).『障害者の就業状況等に関する調査研究』,調査研究報告書, No. 137.

[2] 厚生労働省(2018).「障害者雇用義務の対象に精神障害者が加わりました」,広報用リーフレット,
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000192051.html> (2022/10/12参照)

1 本研究の背景（2）

- 精神障害である短時間労働者の算定方法に係る特例措置

精神障害のある人が20時間以上30時間未満で働く場合、障害者雇用率を算定するうえで、通常0.5人とカウントされるところ、一定の条件を満たせば1.0人とカウントできる

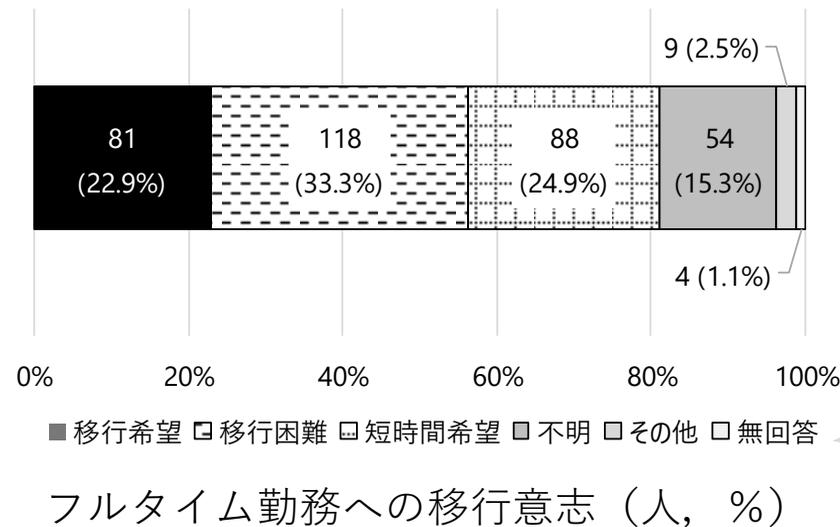
- 条件① 雇入れから3年以内
- 条件② 精神障害者保健福祉手帳の交付から3年以内

 短時間から雇用を開始し、少しずつ労働時間を延ばし、雇用の安定や職場定着を目指す

とはいえ、当事者は労働時間を延ばしたいと思っているのか？

1 本研究の背景（3）

- 雇用率算定方法の特例が適用される短時間労働者に対する質問紙調査の結果^[3]より



※ 略語一覧

- ✓ **移行希望**=フルタイムに) 移行したい
- ✓ **移行困難**=現状ではフルタイム勤務への移行は難しい
- ✓ **短時間希望**=短時間勤務をこのまま続けたい
- ✓ **不明**=今のところ分からない

➡ フルタイム勤務への移行を希望する者は、2割程度で、必ずしもフルタイム勤務が最終目標ではない

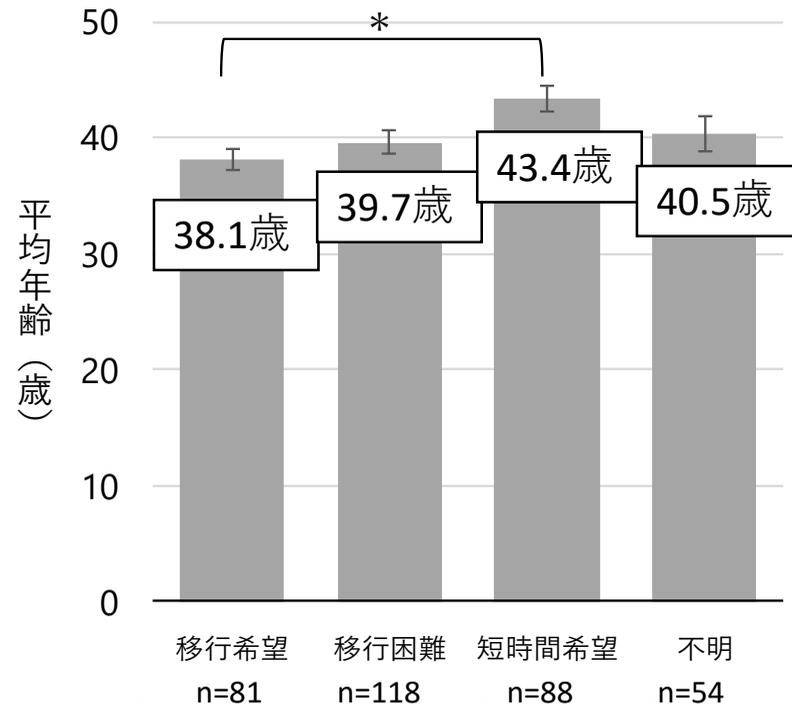
[3] 障害者職業総合センター(2022).『精神障害者である短時間労働者の雇用に関する実態調査:雇用率算定方法の特例が適用される労働者を中心として』,調査研究報告書, No. 161.

2 目的と方法

- **目的**：精神障害がある短時間労働者がフルタイムで働くことを考えるのに影響する要因を検討
- **方法**
 - **研究参加者**：2018年の「障害者雇用状況報告」で特例適用者を雇用していると回答した企業で働く特例適用者**354名**
 - ※ 調査実施期間は、2019年の9月～10月
 - ※ 質問紙は企業に郵送し、事業所等を通じて対象者に渡してもらった
 - **分析**：前掲の「フルタイムへの移行意志」と「年齢」、「各種満足度」、「就労にあたり重要と考える項目」、「障害・疾患の程度にかかわる項目（手帳等級）」との関係をクロス集計などによって行う

3 結果（1）年齢

- フルタイム移行意志の回答カテゴリーごとの平均年齢



※ エラーバーは標準誤差
※ *p<0.05

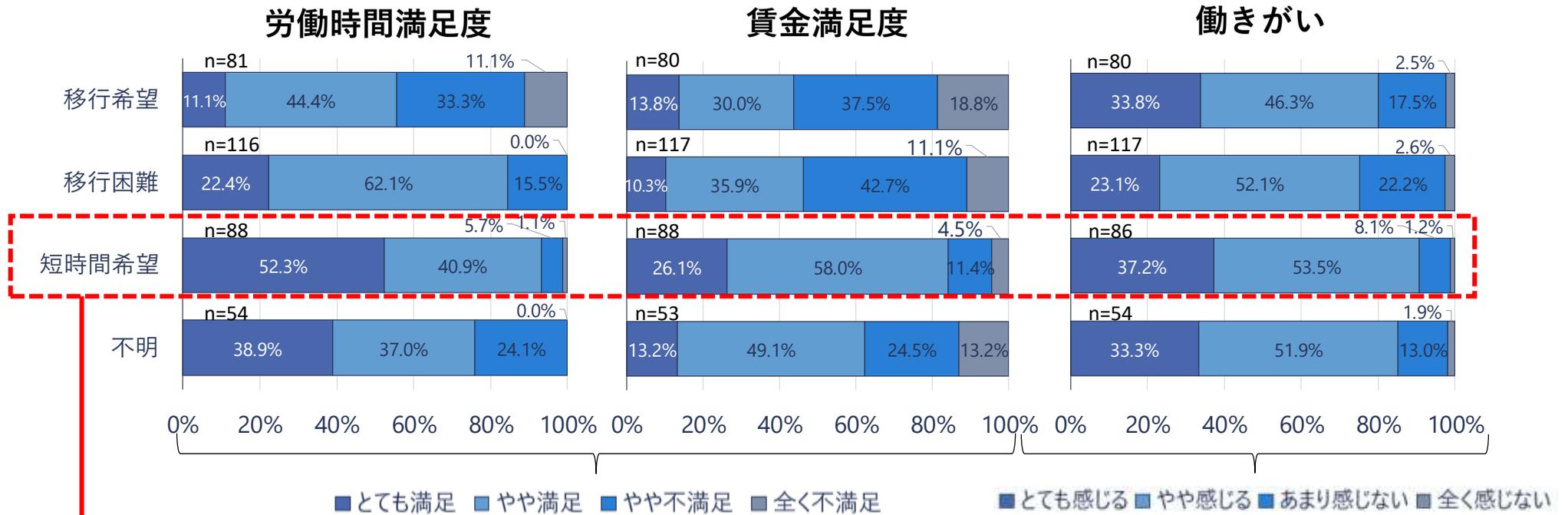
フルタイム移行意志で4つのグループに分け、そのグループごとに平均年齢を計算した



フルタイムへの移行を希望するグループは、短時間のままだいることを希望するグループより、有意に若くなる傾向が認められた

3 結果（2）満足度

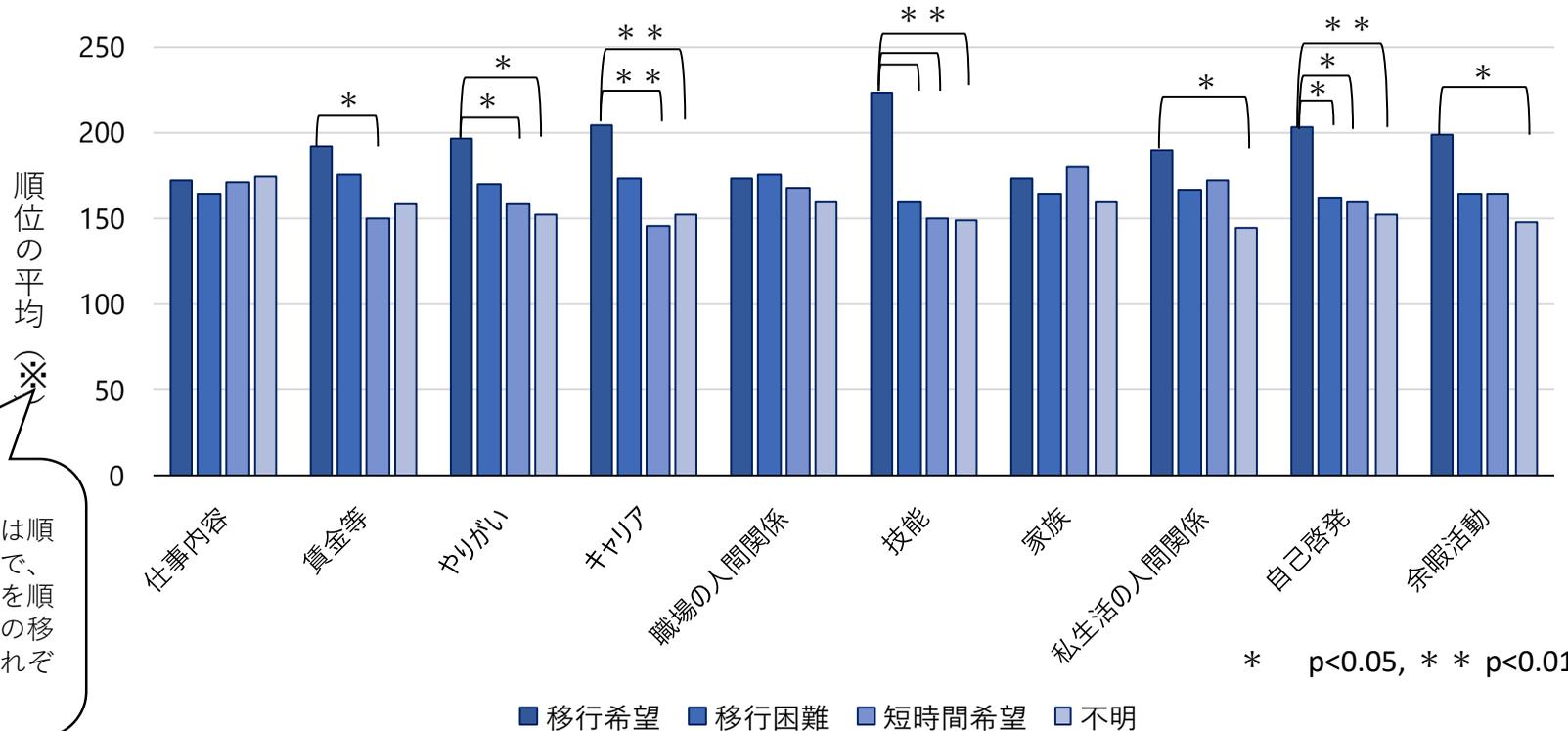
- フルタイム移行意志と各種満足度の関係



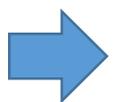
- とても満足（とても感じる） + やや満足（とても満足）の比率は、短時間希望のグループで最も大きかった

3 結果（3）就労するのに重要な項目

- フルタイム移行意志と各種満足度の関係



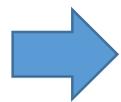
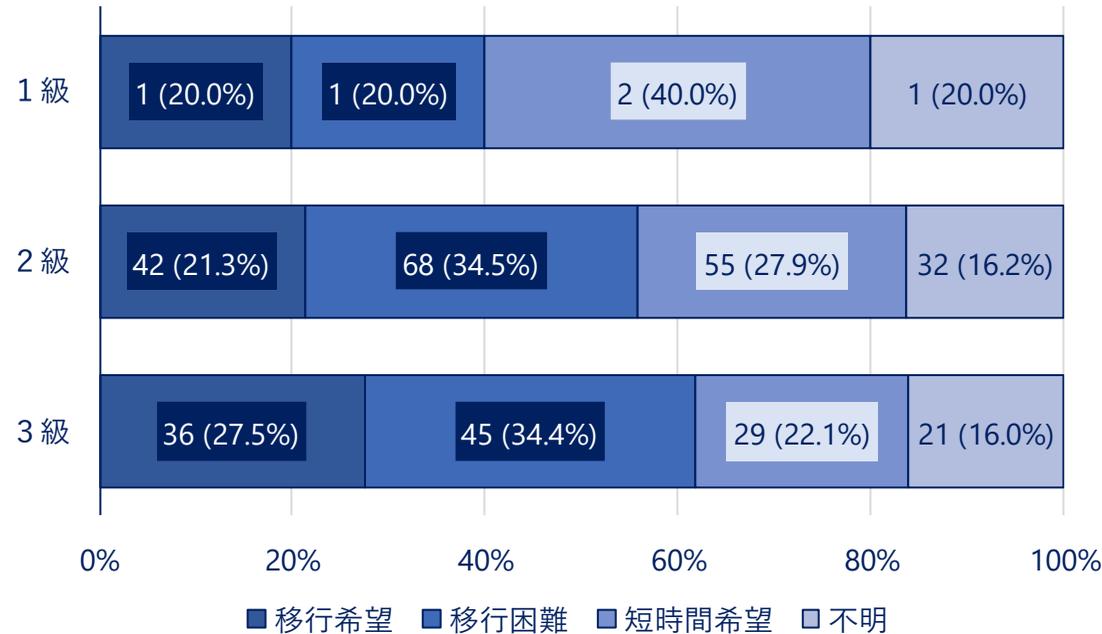
※ 順位
就労するのに重要な項目は順序に意味のある変数なので、項目ごとのケースすべてを順位づけし、フルタイムへの移行意志の項目で分け、それぞれの平均値を出したもの



フルタイムへの移行を希望するグループは、「賃金等」「やりがい」「キャリア」「技能」「私生活の人間関係」「自己啓発」「余暇活動」を、他のグループより重視する傾向

3 結果（4）手帳等級：障害・疾患の程度にかかわる項目

- フルタイム移行意志と精神障害者保健福祉手帳の等級



1級→2級→3級とフルタイム移行意志の比率が大きくなっているように見えるが、統計的な有意差は認められなかった

4 まとめ

- ①フルタイム勤務への移行を希望するグループは、相対的には、年齢が若い・労働時間満足度が低いなどの傾向がみられる
- ②短時間勤務を希望するグループは、満足度全般が高くなる傾向がある
- ③フルタイム勤務への移行を希望するグループは、キャリアアップや私生活に関わることを、仕事を続けるにあたって大事なものとする傾向がある
- ④障害の程度を示すと考えられる手帳等級は、グラフ上では、より障害の程度が軽いグループがフルタイム勤務への移行を希望するように見えるが、統計的な有意差は認められなかった